

おおさかタイムライン防災プロジェクト

いかなる災害も、先を見越し、あらかじめ、各組織の役割や行動を定め合意しておくことが、いざというときに、命を守る、経済被害を最小化することにつながる

タイムラインで変わる防災

「タイムライン防災」とは、大規模な災害はいずれ発生することを前提に、府民の命を守り、被害を最小化することを目的として、防災関係機関が連携して、災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、共有した上で、「いつ」「誰が」「何を」に目線を、防災行動とその実施主体を時系列に整理した計画です。

1. タイムラインの策定過程で、お互いの顔が見える関係を築く。
2. タイムラインであらかじめ役割を決めて、動く。
3. タイムラインは、首長の意思決定を支援する。
4. タイムラインで、先を見越した早めの行動が安全・安心に。
5. タイムラインを防災チェックリストとし、防災行動の漏れ、抜け、落ちの防止に。
6. タイムラインに実災害での反省や課題をフィードバック。



プロジェクトの概要

大阪府では、タイムラインを以下の3つに分類しており、それぞれについて先行取り組み（リーディングプロジェクト）に着手し、タイムラインを完成させ、先行事例をモデルに、洪水や土砂災害、高潮災害など異なるハザードも対象に加えるながら、国や市町村と連携し、タイムライン防災を大阪府全域に広げていく、「おおさかタイムライン防災プロジェクト」を進めています。

広域タイムライン

比較的大きな流域を対象とし、大阪府や市町村、国に加え、報道機関、ライフライン事業者、鉄道事業者など多くの防災機関の防災行動を記載し、主に国や大阪府が主体となり作成する流域タイムライン

リーディングプロジェクト

寝屋川流域大規模水害タイムライン



完成したタイムラインを手交する寝屋川流域市長ら

市町村タイムライン

ひとつの市や町、村の区域を対象とし、主に市町村の各部署の防災行動を記載し、主に市町村が主体となり作成する市町村のタイムライン

リーディングプロジェクト

河南町土砂災害タイムライン



完成したタイムラインを祝う河南町の職員ら

コミュニティ（地域）タイムライン

自治会や小学校区など小さな区域を対象とし、住民や自主防災組織などの防災行動を記載し、主に市町村と地域と住民が一緒に作成する地域のタイムライン

リーディングプロジェクト

貝塚市高潮タイムライン



ワークショップを行う貝塚市の地域住民ら（地住宅地区）

プロジェクトの達成目標

水防災意識社会の再構築に向けた緊急行動計画に基づき、2021年（令和3年度）までに、大阪府内の全市町村において、「洪水」「土砂」「高潮」のいずれかを対象としてタイムライン策定を目指します。

洪水

流域が複数の市町村にまたがり、施設操作などにより、水位情報が重要な意味を持つ河川については、流域全体を対象に大阪府が「主体的」に策定します。

その他の河川は、「市町村タイムライン」が基本となるため、大阪府は「策定支援」を行います。

土砂災害

現象が限定的であり「市町村タイムライン」が基本となるため、大阪府は「策定支援」を行います。

高潮

大阪湾沿岸の複数の市町村が関連し、水門や鉄扉等の操作や道路の通行止め等、府の防災行動が大きく影響するため、大阪府が「主体的」に策定します。

タイムラインは策定して終わりではない

平常時の訓練や実際の水害対応などの中で検証などを踏まえて、改善を重ねる、確実な災害への備えに繋がっていきます。



これまでの取り組み



今後の展開

タイムラインを検討する市町村や団体を支援するため、先行取り組みの紹介と策定の手順を示した「タイムライン策定のしるし」と「コミュニティタイムライン」のリーフレットを作成。また、コミュニティタイムラインの作り方を、市町村の防災担当者や地域住民の皆さまに、紹介する「タイムライン策定DVD」を作成。



※上図は、タイムライン完成状況
■「広域タイムライン」
●「市町村タイムライン」

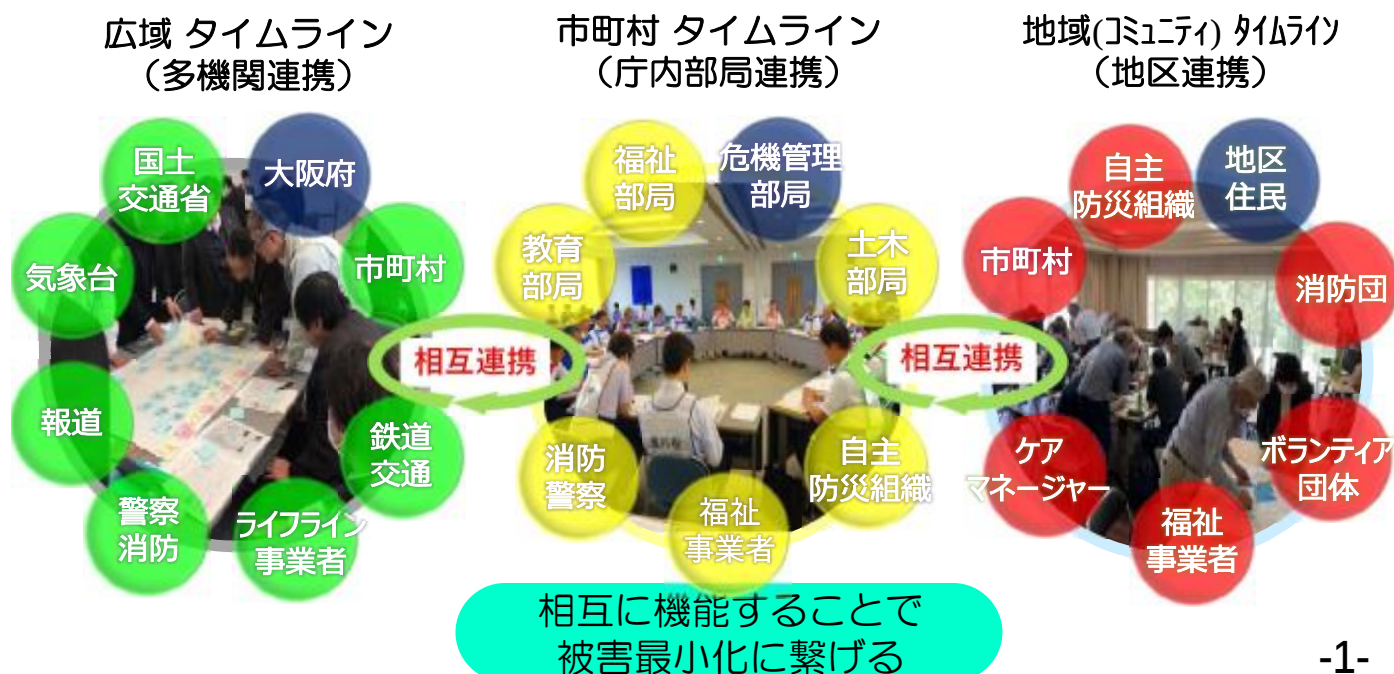
【市町村タイムライン】の取組み状況

令和3年3月時点

地域・ ブロック	市町村名	広域ＴＬへの参画						策定 済み ○	市町村TL 策定状況				
		① 安 威 川 流 域	①' 神 崎 川 流 域	② 寝 屋 川 流 域	③ 石 川 外 流 域	④ 大 津 川 流 域	⑤ 大 阪 湾 沿 岸 州		完成時期 (予定)	対象災害			
										洪水	土 砂	高 潮	地 震
豊能	能勢町												
	豊能町												
	池田市							○	R2.3月	●	●		
	箕面市							策定中	(R3年度)	●	●		
	豊中市		●										
三島	高槻市	●						○	H29.1月	●	●		
	茨木市	●						策定中	(R3年度)	●	●		
	島本町							○	R2.3月	●	●		
	吹田市	●	●					策定中	(R3年度)	●	●		
	摂津市	●	●										
大阪市	大阪市	●	●	●									
北河内	枚方市			●				○	R3.3月	●	●		
	交野市			●				○	R1.9月	●	●		
	寝屋川市			●				策定中	R3.6月	●	●		
	守口市			●				○	R1.6月	●			
	門真市			●				○	R2.6月	●			
	四條畷市			●				○	R2.12月	●	●		
	大東市			●				○	H30.8月	●			
中河内	東大阪市			●				○	H30.8月	●	●		
	八尾市			●				○	H30.8月	●			
	柏原市			●	●			○	H30.12月	●	●		
南河内	松原市				●			○	R2.3月	●			
	羽曳野市				●			○	R2.3月	●	●		
	藤井寺市				●			○	R2.3月	●			
	太子町				●			○	R2.3月	●	●		
	河南町				●			○	H30.8月	●	●		
	千早赤阪村				●			○	R2.3月	●	●		
	富田林市				●			○	R2.3月	●	●		
	大阪狭山市				●			○	R2.3月	●	●		
	河内長野市				●			○	R2.3月	●	●		
泉北	堺市						●	○	R1.5月	●	●		
	和泉市					●	●	○	R1.7月	●	●		
	高石市						●	○	R3.3月	●		●	
	泉大津市					●	●						
	忠岡町					●	●						
泉南	岸和田市					●	●						
	貝塚市						●	○	R1.9月	●	●	●	
	熊取町						●						
	泉佐野市						●	○	H28.7月	●	●	●	●
	田尻町						●						
	泉南市						●						
	阪南市						●						
岬町						●							
全 43 市町村						完成 ○	26	30 23 3 1					
						策定中	4						

■ おおさかタイムライン防災プロジェクト

- ・ タイムラインとは、災害の発生に備えて「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して、防災行動と実施主体を時系列に整理した計画。（事前防災行動計画）
- ・ 台風等に起因する洪水や高潮、土砂災害など事前に予測ができる進行型の災害を対象に、タイムラインを府域全域に展開しています。

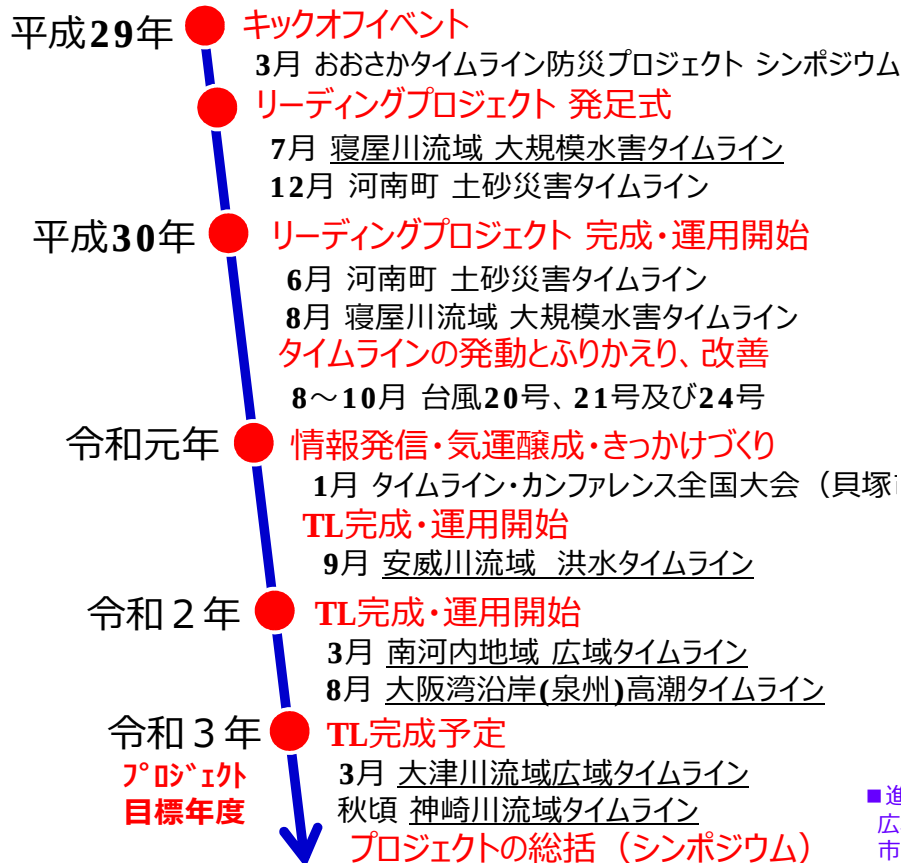


-1-

■ 各種タイムラインの内容と意義

府施策	おおさかタイムライン防災プロジェクト			防災意識の普及啓発
TL種別	広域 タイムライン	市町村 タイムライン	地域 タイムライン (コミュニティ) 『地区防災計画』を時間軸に沿ってわかりやすく整理したもの	マイ タイムライン
内容・主体	大きな流域を対象に多くの防災機関の行動を記載し、主に <u>国や府が主体</u> に作成。	市町村の各部署の防災行動を記載し、主に <u>市町村が主体</u> に作成。	コミュニティレベルでの防災行動を記載し、 <u>市町村と地区住民</u> が一緒に作成。	住民一人ひとりの防災行動を記載し、 <u>個人や家族</u> が作成。
意義	公助		共助	自助
	行政や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、 <u>公的支援を円滑に進めること。</u>		高齢者や障害者などの避難や救助活動のために、地区住民たちで助け合い、 <u>地区の防災力を向上すること。</u>	家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難するなど、 <u>自らの力で身を守ること。</u>

『おおさかタイムライン防災プロジェクト』のあゆみ



-3-

■住民の避難行動に関する現状

- プロジェクト立ち上げ（H29.3）以降、「広域」「市町村」が進み、タイムライン導入で行政側の先を見越した早めの防災行動（体制構築や避難勧告等の発令）が可能となった。一方で、**防災情報が豊富に存在しているにもかかわらず、住民側では、肝心の避難行動に結びついていない。**（タイムラインが「地域」まで浸透しておらず「広域」「市町村」の真の効果が発揮できていない。）
- また、平成30年7月豪雨、令和元年台風第19号、令和2年7月豪雨（球磨川）など、近年、大規模水害が頻発し、**高齢者や障害者など『避難行動要支援者』が、犠牲者の半数以上を占めている。**
- さらに、避難所における感染症対策や、在宅避難、親戚・知人宅など、指定避難所に限らない**避難の在り方が多様化している。**

■今後の取り組みの方向性

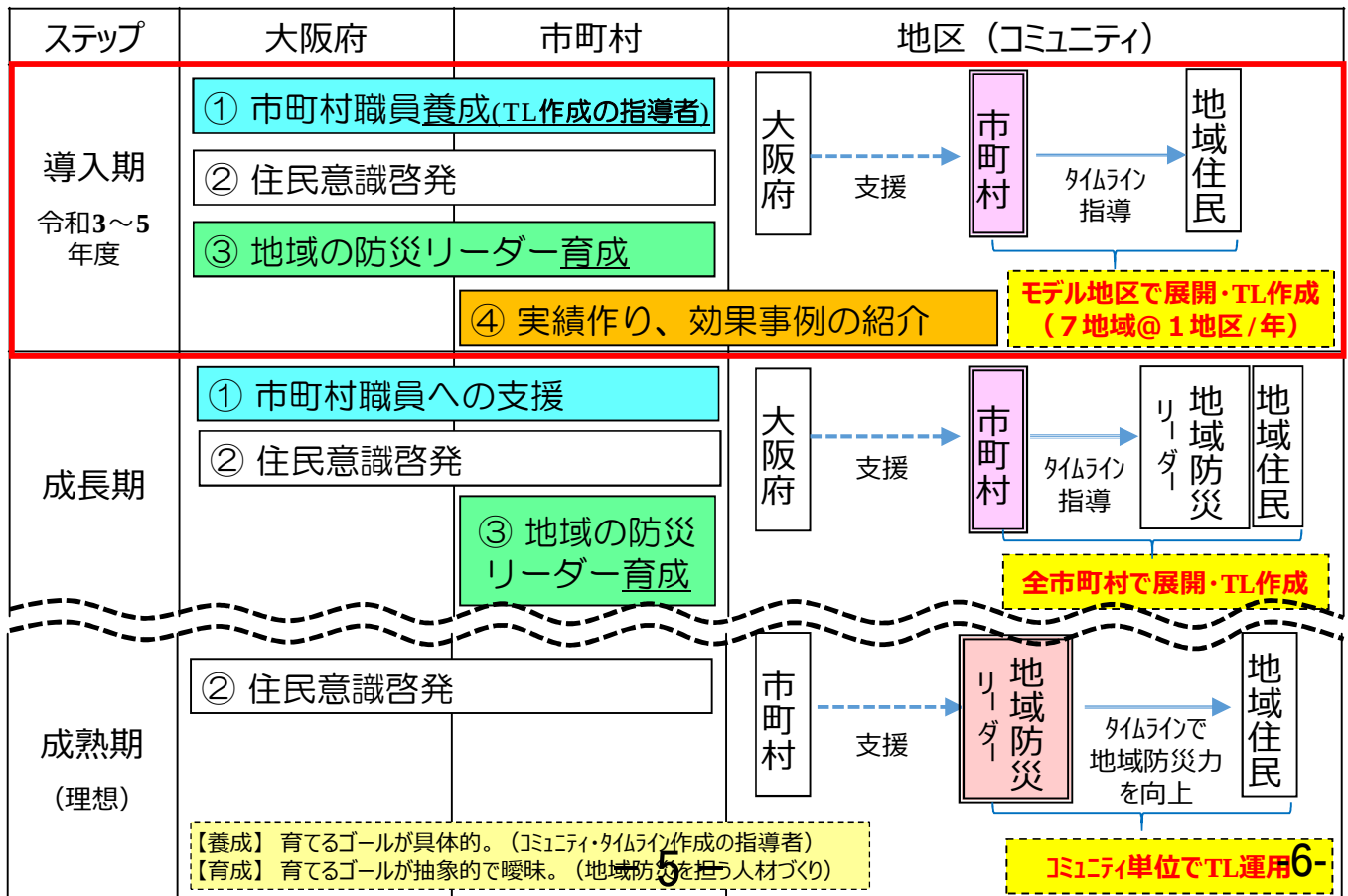
「地域(コミュニティ)」タイムラインの取り組みを強力に支援して、自力で避難できない高齢者等を含む地区住民の避難の実効性を高め、適切な避難行動に導いていく。

■課題と対応

地域タイムラインが進まない理由（課題）		対応方針	具体的な支援内容
市町村	取組み方がわからない	市町村職員の養成・支援	■ ノウハウ伝授、気運醸成 ・シンポジウム開催（気運醸成） ・講習会（TL指導者養成） ・動画など支援ツールの開発
	他の防災の取組みが多くて手が回らない		
	明確な効果が見えない	実績作り、効果事例の紹介	■ モデル地区 での取り組み ・1地区/年/事務所管内
	対象地域が多くてマンパワー不足	指導役を担う地域の防災リーダーを育成	■ 防災リーダー育成支援 ・防災リーダー研修（府・防対協主催）に『TL指導者養成』を組入れ ・市町村が企画する育成研修への支援（講義など）
地域住民	指導者・キーマンが不在		
	防災意識が未成熟	住民の意識啓発の繰り返し	■ 災害リスク周知 ・浸水想定区域図等の公表 ・地域版ハザードマップ更新の支援

-5-

■理想に向けた段階的な取り組み



■ 取り組み支援ツール（DVDにパッケージ化）



動画



ワークシート(ひな形)



タイムライン策定の手引き
(洪水編・土砂災害編)



コミュニティ・タイムライン
の啓発リーフレット

※活用事例

1) 『コミュニティ・タイムライン』の紹介

- ・地域住民とのワークショップにてタイムラインの意義や効果、進め方などの説明に活用

2) DVD(動画)を活用した防災啓発

- ・防災出前講座、地域版ハザードマップ作り、防災リーダー研修などでの学習ツール



ワークショップの標準的な手順

① 学習会

DVD(動画) + 座学等による講習

② まち歩き・フィールドワーク

危険箇所や避難経路等の確認

③ グループワーク

防災行動を地区住民で討議

④ 避難訓練など

出水期前や台風に備えて実施

-7-

【参考】モデル地区での年間業務サイクル(案)

項目	ツール・準備物	2～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
① 地区選定 市町村と候補箇所調整	○候補要件 活動実績や防災リーダーの存在、主体性のある地区					次年度の候補箇所
① 学習会 地区の災害リスク周知、防災気象・避難情報の入手方法、行動のタイミング	タイムライン動画、ハザードマップ、マイタイムラインワークシート、出前講座資料など					
② フィールドワーク 危険箇所・避難経路等の確認、防災資器材の保管場所・点検等	ハザードマップ 防災資器材リスト 備蓄物資のサンプル等					
③ グループワーク 地区の特性・課題抽出 連絡系統、安否確認方法、避難行動要支援者の避難検討、コミュニティタイムライン策定	ワークショップ 道具、コミュニティタイムラインワークシート、要支援者の名簿(市町村)					
④ 避難訓練 TLに基づく情報伝達、避難(避難所開設)、安否確認(避難行動要支援者)等の訓練実施	現行のタイムライン 災害計材 訓練道具					

進行度合いに応じて複数回実施

梅雨期前～台風期

次年度以降もフォローアップ支援

望ましい実施時期

- 6 -

-8-

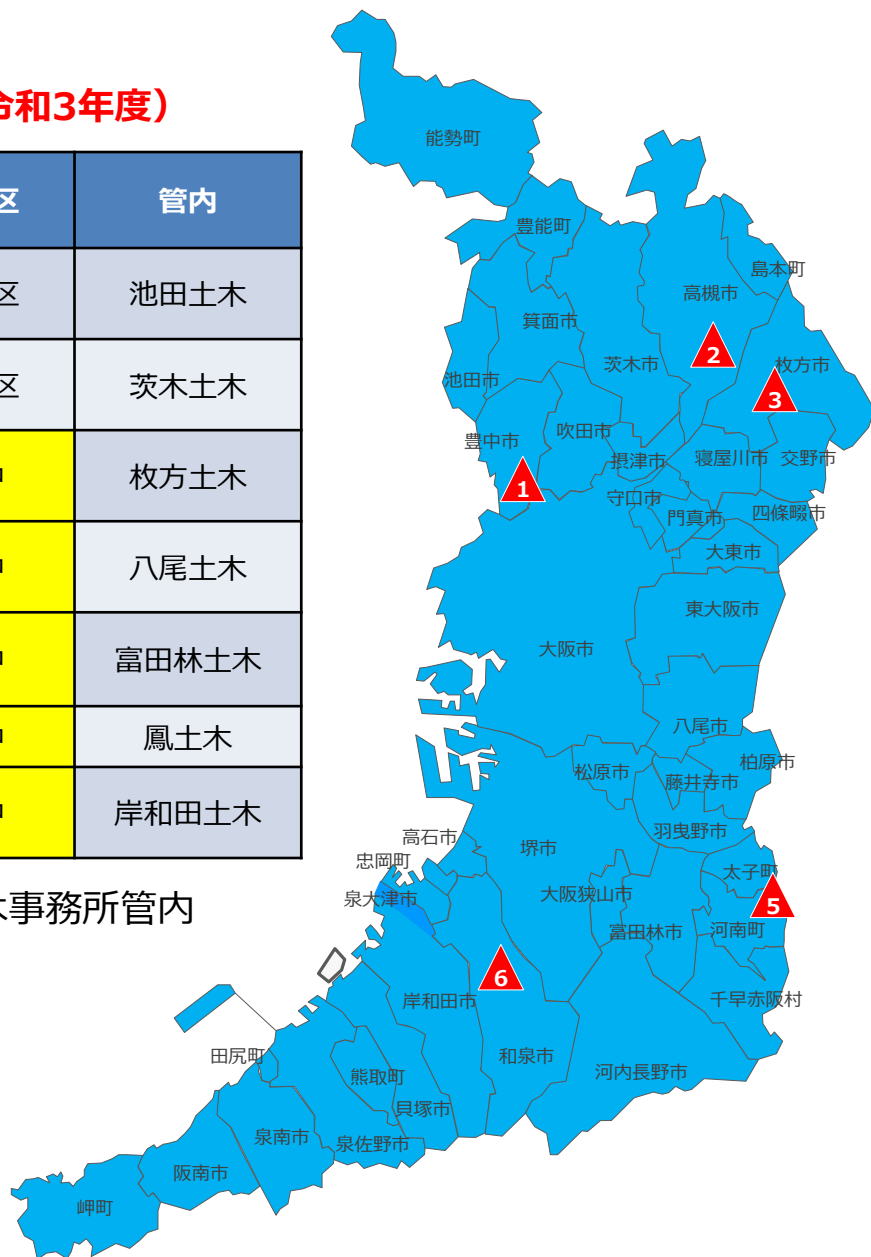
コミュニティ・タイムライン モデル地区

令和3年3月
大阪府 河川室

■モデル地区 予定箇所（令和3年度）

番号	市町村	候補地区	管内
①	豊中市	千成地区	池田土木
②	高槻市	柳川地区	茨木土木
③	枚方市	調整中	枚方土木
④	調整中	調整中	八尾土木
⑤	河南町	調整中	富田林土木
⑥	和泉市	調整中	鳳土木
⑦	調整中	調整中	岸和田土木

1 地区以上／年度@ 7 土木事務所管内



大阪府では、市町村のコミュニティ・タイムラインを取り組みを
支援するためモデル地区を募集しております。

お問い合わせ・ご相談は、土木事務所 地域支援企画課まで